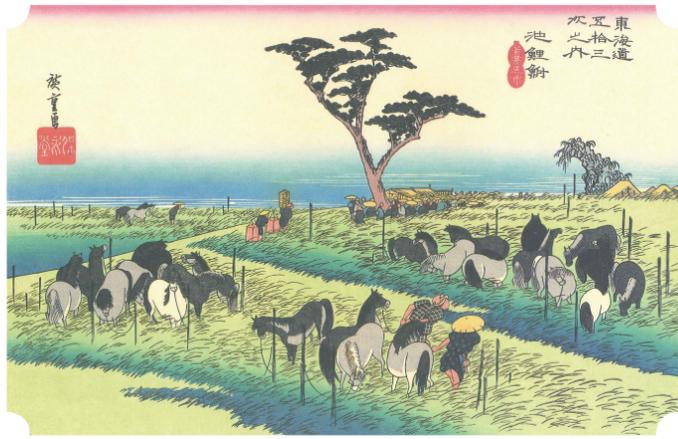


東海道五十三次を往く

第32回

江戸から数えて39番目となる知立宿。美しい松並木が迎える宿場町をミスモ編集部が巡りました。



知立宿

馬の市が盛んだった池鯉鮒宿

知立は江戸時代には「池鯉鮒」と表記されていた。鯉や鮒が多く棲む池があったことから名づけられたそう。その知立宿に入る手前に来迎寺一里塚がある。この一里塚は街道の左右に對で松の木が植えられた塚が残る貴重な一里塚だ。ここからしばらく歩くと昔の街道の面影を残す「知立の松並木」が続く。知立は江戸時代には馬の市が盛んで、広重が描いた「池鯉鮒「首夏馬市」」の絵の馬市の跡もこのあたりだったそうだが今は牧歌的な絵の面影はほとんどない。知立の町にはあまり遺構はないが、街道の周辺には古い商家が残っている。少しわかりにくい本陣跡を過ぎてしばらく道なりに歩くと知立古城址があり、さらに行くとう東海道屈指の名社と呼ばれる知立神社がある。



「馬市之趾」の石碑



知立松並木

知立宿に残る松並木は約500mの間に約170本の松が植えられている。



知立宿(池鯉鮒宿)の入り口にある石碑



左右に對で松の木が植えられている来迎寺一里塚。



懐かしい丸型のポストが残る東海道



知立神社

池鯉鮒大明神とも呼ばれ、熱田神宮、三嶋大社と並び東海道三社に数えられていた名社で、境内にある多宝塔は国の重要文化財に指定。また蛇やムカデなどから身を守ってくれる「長虫除け」のご利益もあるそう。



中町交差点界隈

宿場の中心だった中町交差点付近には、木造の古い商家が軒を連ねている。



おみやげ

元祖あんまき

知立古城址の近くにある小松屋本家の「元祖あんまき」は130年以上の歴史があり、今も一つ一つ手焼きで作る。黒あん和白あんがある。

小松屋本家

愛知県知立市西町西 83
☎ 0566-81-0239
🕒 8時～19時 📍火曜

